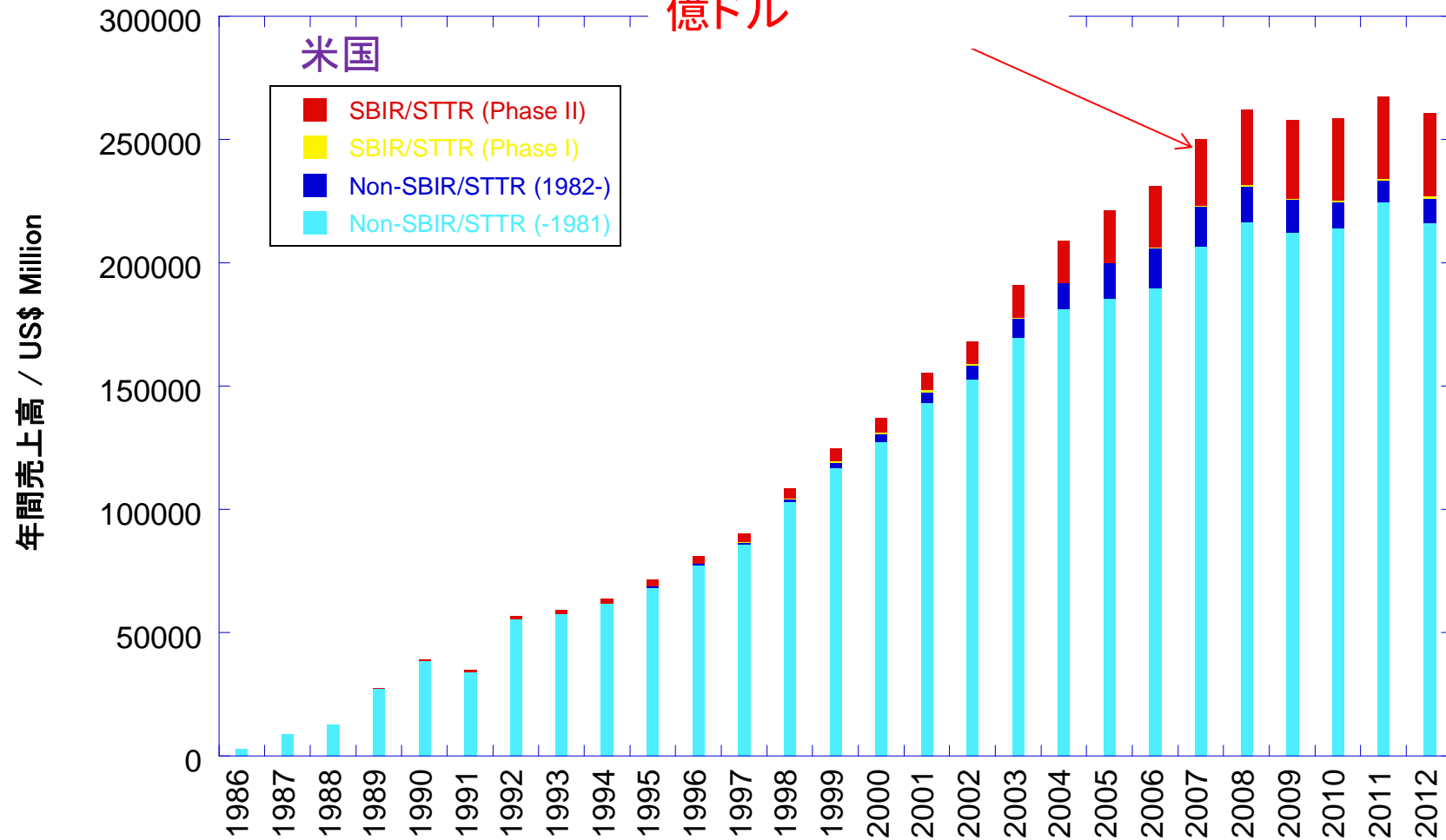
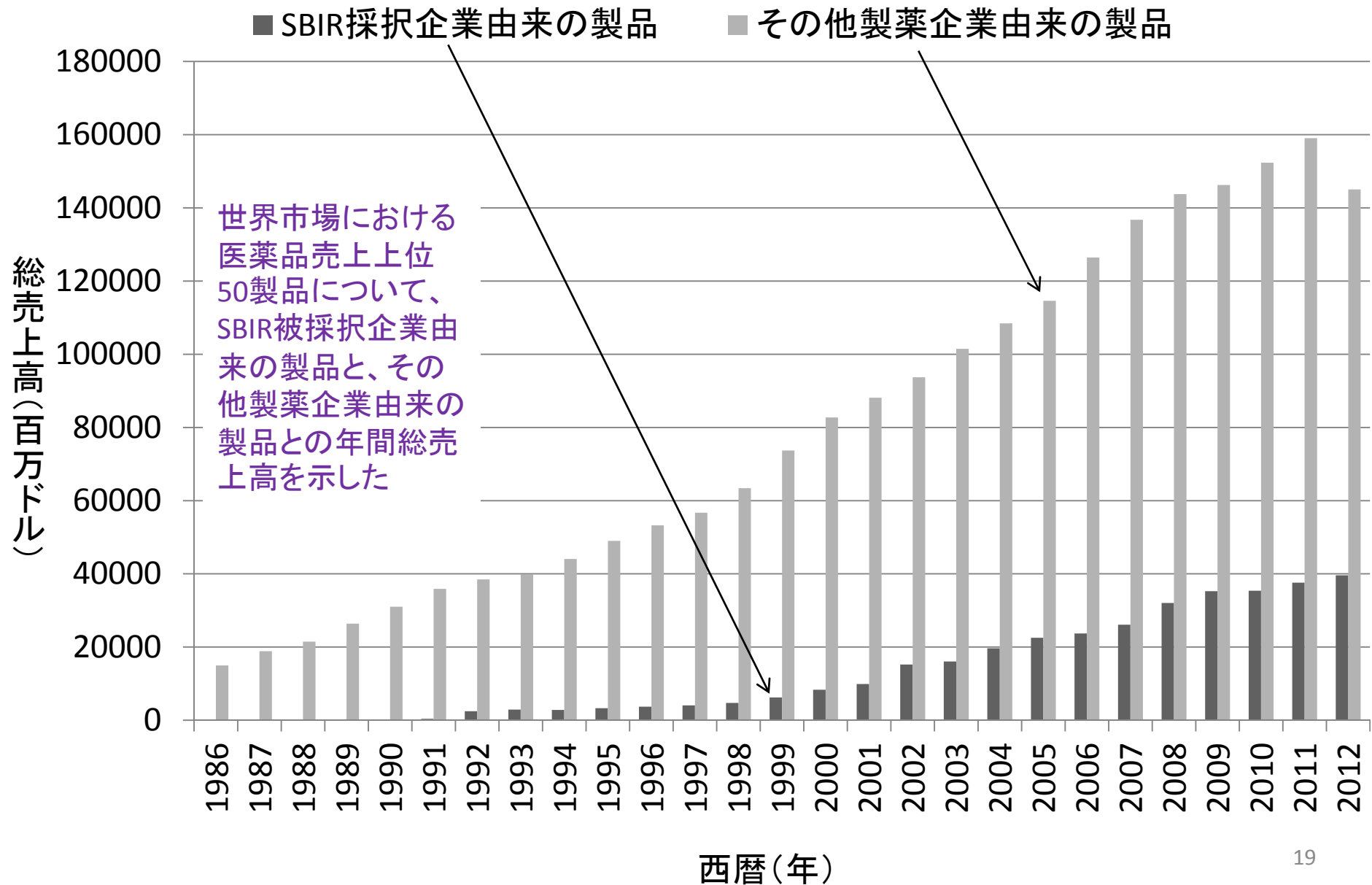


# 保険薬を製造する企業の売上高の年次推移

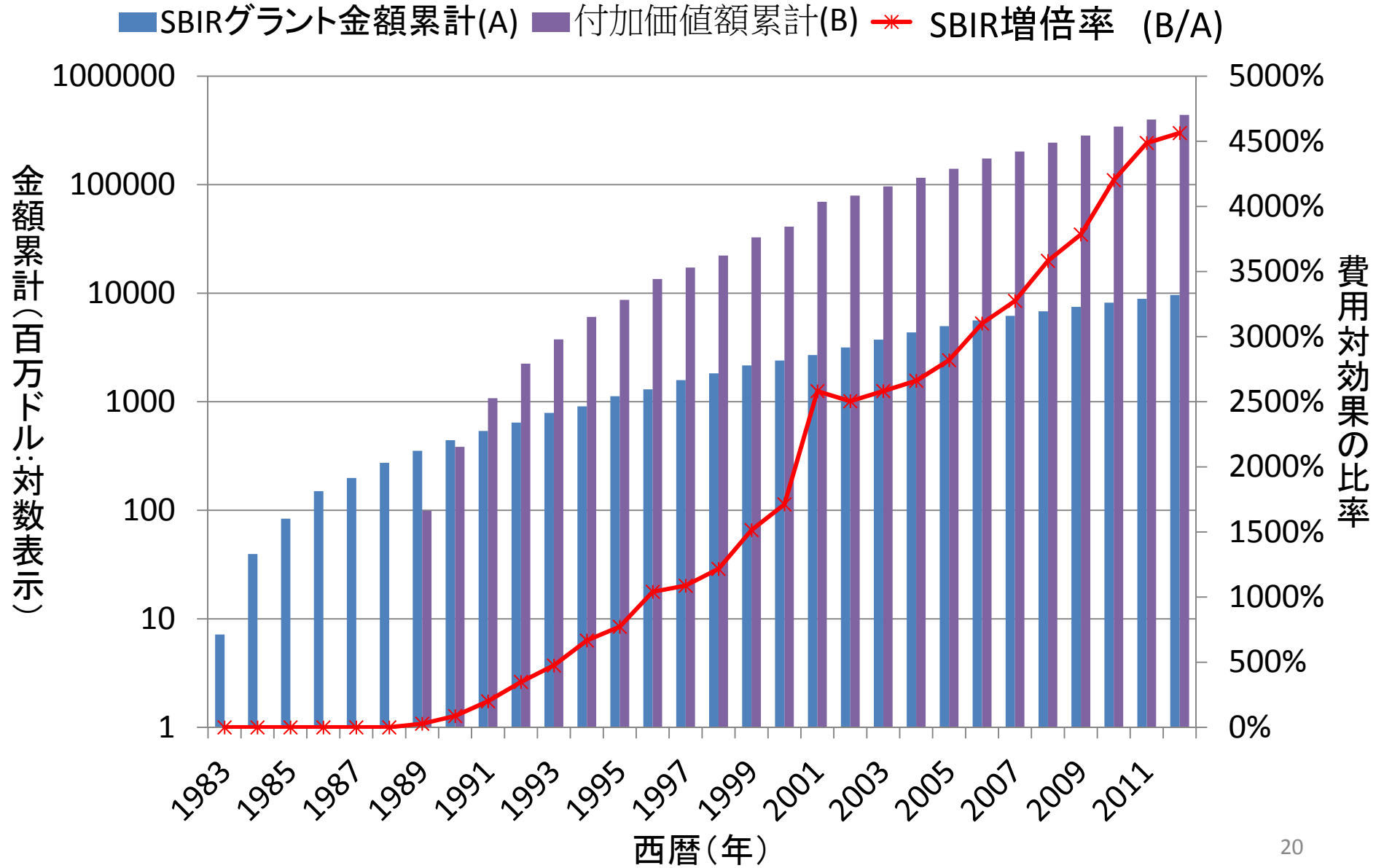
米国: SBIR企業の売上高合計は、3170億ドル



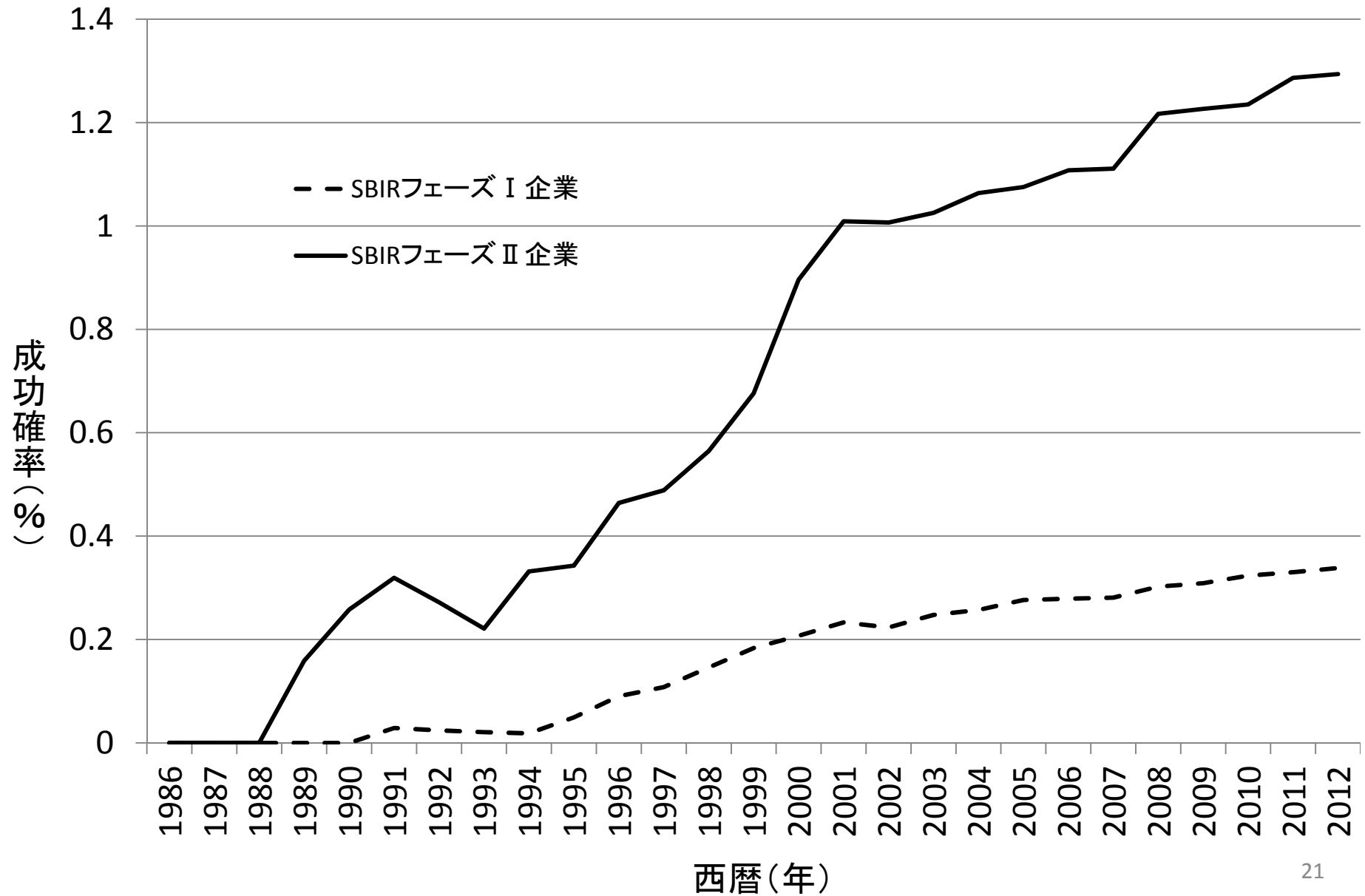
# 米国医薬品産業：SBIR企業由来の製品の売上高



# 米国医薬品産業：SBIR(HHS拠出分)の増倍率



# 米国医薬品産業：SBIR企業の成功確率の年次推移



# SBIR企業の成功事例

	会社名	創業年	創業者	Phase I	Phase II
Bio-Pharma	AMGEN (CA)	1980	Dr. G. Rathmann Chemist for 3M	1986 50K\$ 1989 50K\$	1988 500K\$
	Gilead Sciences (CA)	1987	Dr. M. Riordan MD Dr. P. Dervan, chemist, CalTech	2000 128K\$ 2000 120K\$ 2004 100K\$	2002 577K\$ 2003 174K\$
Power Transistors	Cree Research (NC)	1987	(Prof R. Davis) Dr N. Hunter Dr J. Palmour, NCU	1988 140K\$ 1989 49K\$ 1992 150K\$ etc	1990 1876K\$ 1993 1337K\$ 1994 400K\$ etc
	Transphorm (CA)	2007	Prof U. Mishra Dr. P. Parikh, UCSB	2009 70K\$	2010 1497K\$
Solar Cells	SunPower (CA)	1985	Dr. R. Swanson EE, Stanford Univ.	1983 90K\$ 1984 50K\$ 1985 49K\$ etc.	1986 449K\$ 1993 667K\$ 1995 597K\$ etc.
	First Solar (AR)	1999	H. McMaster M. Ahearn, JD	1995 75K\$ 1998 75K\$	1996 750K\$ 1999 750K\$

# まとめ

1. 日本は、1990年代後半におきた大企業中央研究所の終焉の後、新しいイノベーション・モデルを見つけられないまま、漂流している。しかもイノベーションを生み出すべき科学分野が収縮を起こしており、根源的に危機的状況にある。
2. いっぽう米国は、SBIR制度の断固たる持続的遂行を通じて、ついに新しいイノベーション・モデルを発見した。それは、「ベンチャー企業のネットワーク統合体による、開かれたアメリカ合衆国中央研究所」モデルとも呼ぶべきシステムである。
3. 周回遅れの日本が、科学もイノベーションも滅びゆく国にならないためには、パラダイム破壊型イノベーションがどのようにして生まれるか、その本質に立ち戻るべきである。

⇒回遊型の目利きを育てる。知の創造と価値の創造との「共鳴場」を育む。

研究開発型ベンチャーの創出強化は、わが国イノベーションシステムの抱える課題解決への大きな契機となる

未来産業の創出  
⇒パラダイム破壊型イノベーションの創出

- 国家のイノベーション戦略(新産業戦略)の中継核として内閣府を位置づける
- 未来産業をプロデュースするイノベーション・ソムリエを配置する
- 開かれたネットワーク統合体として「日本国(バーチャル)中央研究所)」を構想

新たな我が国イノベーションシステムの構築

若手の活躍促進  
⇒若き無名の科学者をベンチャー起業家に

大学改革  
⇒大学から産業界への人材流動化、人材・知・資金の好循環